

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和6年度学校評価 中間評価

学校名	有田町立有田中部小学校
-----	-------------

達成度（評価）
A：十分達成できている
B：おおむね達成できている
C：やや不十分である
D：不十分である

1 前年度 評価結果の概要	■「知識・技能」等の県共通の重点取組について学年によっては「概ね達成」以上の評価であり一定の成果はでているものの、「書く」「読む」領域において県平均を下回っている学年もある。引き続き児童や保護者との連携を図りながら指導改善に生かしていきたい。 ■学力向上のための基礎基本の徹底を図るとともに、授業力の向上に向けた授業改善に取り組み、個々の特性に応じた実践を行っていきたい。 ■焼き物作りや総合的な学習の時間で体験活動の充実を図り、地域との連携を強化していきたい。	
--------------------------	--	--

2 学校教育目標	自ら気付き、人との関わりの中で自分らしさを発揮しながら課題解決に向かう子どもの育成
----------	---

3 本年度の重点目標	①優しく思いやりのある子どもを育てる。 ②主体的で創造性豊かな子どもを育てる。 ③心身ともにたくましい子どもを育てる。
------------	---

4 重点取組内容・成果指標			中間評価		5 最終評価					
(1)共通評価項目										主な担当者
重点取組			中間評価		最終評価		学校関係者評価			
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	○自ら学び続ける児童の育成につながる授業づくり	○児童アンケートにおいて肯定的に回答する児童の割合を80%以上をすることを旨とする。	・児童に身につけさせたい力をはっきりさせ、身についた姿(振り返り)をイメージした授業づくりを探る。	B	・各学年で振り返りの視点をどう活用していくかを話し合う時間を設けることができた。また、国語コーナーを学年で掲示し、よく書けている振り返りを紹介する場所を設けている。	B	・振り返りの視点や振り返りシートを用いて、学習計画と振り返りを児童に意識させることができた。前単元や前時で学習したことを振り返りシートで確認する児童も増えてきた。	B	・児童アンケートの結果が80%を超えていることは良いと思う。中学校に向けて継続した取組に期待したい。	研究主任・研究副主任
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○児童アンケート「学校が楽しいですか」で、肯定的回答の割合を児童は80%以上、保護者アンケートお子さんは学校が楽しいとかなじていますか」で90%以上を目標とする。	・ネット上の危険性、ルールやマナーについて授業を行うなど、情報モラル教育を充実させる。 ・児童の発達段階のためのアンケートを定期的に実施し、児童理解に努める。	B	・職員への人権・同和教育研修会や全校児童が参加した平和集会を通して平和の尊さや自他を思いやる心を育むことができた。	A	・児童アンケートでは、肯定的回答が87%。保護者アンケートでは91%であり、ほぼ目標と同等であった。 ・具体的な問題は報告されていないが、潜在的な気になった行動が存在すると思われる。基本的な生活習慣の乱れなどが原因になっている可能性がある。	A	・アンケートの結果等から学校としての取組は評価できるため、なかなか踏み込まないところもあるが、家庭との連携を図り、取組の強化を期待している。	人権・同和教育担当 情報教育担当
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○保護者アンケート「学校は、いじめ防止に向けた取組を適切に実施していると思いますか」で、肯定的回答の割合を75%以上を目標とする。	・いじめアンケートや「月のこころ」、「QUT」を有効に活用し、早期発見と対応を継続して行う。	B	・「月のこころ」については昨年度に比べると、有効に活用する学級が増え、早期支援につながった。 ・いじめアンケートについては、早急に対応ができた。 ・心がきつい児童に寄り添い、早期にCSOとの相談を行う。	B	・「月のこころ」については、各学級で聞き取りを早急に行ったり、管理職や生徒指導主事など学校全体で対応することで、児童の心を多面的に知ろうとすることができたと思う。 ・いじめアンケートについては、早急に事実確認・指導・支援などの対応ができた。	B	・人権標語等の取組をすることで人への思いやりや優しい心になる等の効果が出てきている。。	教育相談担当 道徳主任
	●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答する児童の割合を80%以上を目標とする。 ●「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をする児童の割合を80%以上を目標とする。	・児童の実態に応じた道徳の単元構成や人権・同和教育の計画的な運用を図る。 ・将来への見通しが持てるように、キャリアパスポートの定期的な活用を行う。	B	・ふれあい道徳の授業参観を全学級実施し、保護者へ公開することができた。 ・保護者に道徳通信を配布したことで、道徳教育の在り方や家庭との連携が重要であることを伝えることができた。 ・キャリアパスポートの活用が不十分なので、職員へ活用を呼び掛けたい。	B	・ふれあい道徳後に実施したアンケートでは、保護者の道徳教育についての考えや児童に身に付けてほしい心について知ることができた。その結果も道徳通信に載せることで、児童への道徳教育の在り方や家庭との連携の大切さを再度伝えることができた。 ・キャリアパスポートを活用し、これまでの自分自身の成長を感じたり、これからのことを考えたりする機会を設ける予定である。	B	・児童が将来の夢や希望を持てるような授業改善を図ってほしい。 ・引き続き人権教育や道徳教育の充実を図ってほしい	道徳主任
●健康・体づくり	次の中から1つ以上を選択 ①「運動習慣の改善や定着化」 ②「望ましい生活習慣の形成」 ③「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」 ④「安全に関する資質・能力の育成」 ⑤「健康を考えて行動できる能力の育成」	●授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間で420分以上の児童60%以上 ②「早寝・早起き・朝ごはん」を奨励し、朝食摂取率の割合を90%以上を目標とする。 ③「健康に良い食事をしていく」児童88%以上 ④児童の交通事故を0(ゼロ)にする	①授業や学級経営の中で、体を動かすことの大切さや楽しさを感じさせ、運動習慣の定着を図る。 ②「早寝・早起き・朝ごはん」は、心身の健康に大切なことを常に発信していく。(免疫力向上) ③教科等の時間や給食時間を通して食に関する指導を計画的に実施する。 ④月1回の生活指導を行うとともに、学年主任を中心とした取組を行う。	B	①各学年に合わせたスポーツチャレンジに取り組むことで、身体を動かしながらクラスの団結を高めるように取り組んでいる。2学期には、体力向上のために、持久走週間・持久走記録会を行う。 ②朝食を必ず食べて登校する児童は83%(5月調査)。食育月間中に朝食チェックシートを活用し生活リズムの改善を図った。特に朝食喫食率が低い学年については学級活動で朝食指導を実施。栄養摂取量が増大する中学生期を迎えるまでに、朝食摂取の習慣化の定着が今後の課題である。 ③全クラスにおいて学級活動及び教科等の時間において「食に関する指導を実施」(1学期～12年)朝食を必ず食べて登校する児童は88%(5月調査)。食育月間中に朝食チェックシートを活用し生活リズムの改善を図った。特に朝食喫食率が低い学年については学級活動で朝食指導を実施。	B	①全学級がスポーツチャレンジに取り組み、何回も挑戦することでクラスの団結を高めることができた。持久走記録会では、練習中に歩人数が多かったが、普段運動をしていない児童の運動時間の確保になった。児童・保護者アンケートでは、1週間で4時間以上運動をしている割合が共に約60%だった。 ②「朝食を必ず食べる」という児童が83%→85%に上昇。 ③教科等の時間や給食時間において給食を食した教材として活用したことで児童の食への興味関心が高まっているが、健康に良い食事をしている児童は83%である。 ④放送による注意喚起や学年集会等による指導を行うことができた。	B	・アンケートからも学級や家庭ごとの運動習慣が少ないと感じる。外遊びの推奨を行い、家庭と連携しながら体力向上につなげてほしい。 ・各家庭も学校で学習したことを児童とともに会話することで、我が家の習慣、食生活を振り返るきっかけになった。各家庭への食習慣の啓発が必要と思われる。	体育主任 保健部 栄養教諭
	○望ましい生活習慣の形成	●保護者アンケートの結果で、肯定的回答の割合を90%以上をすることをめざす。	・朝食喫食率が低い学年においては、学級の活動で朝食に関する指導を行い、個別指導を行う。	B	・「朝食を必ず食べる」という児童が(83%→85%)に上昇。朝食喫食率が低かった3年生は(77%→85%)に上昇。4年生はほとんど食べない児童が(5%→1%)に減少した。	B	・アンケート結果から、数値的に改善がみられる。早寝・早起き、朝ご飯を摂ることで生活リズムを整えることができると思う。	A	・栄養教諭 保健部	
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・繁忙期とそうではない時期を明確にし、年間を通し、軽重を付けたりしながら働き方改革に取り組む。 ・定時退勤推進日を設定するとともに継続した声かけを行う。	B	・上期の時間外勤務時間の平均は40時間以内であった。夏季休業中の研修を工夫することで、軽重を付けながら、指導力向上と業務削減の両立を図っている。	A	・4月～2月の時間外勤務時間の平均はおよそ30時間程度であった。平均時間が短くなってきており、軽重を付けながら業務改善が進んできていると考えられる。固定的な職員の在籍等時間は長く、自身の業務改善にはつながっていない面もあるが、年間を通した時間についても昨年度より減少している。	A	・学校全体で業務改善に取り組むことができているのは、良いことだと思う。 ・業務改善しながら、授業の充実を図ってほしい。	教頭
	○年休を取りやすい環境づくりをする	○昨年度の日数より増やす。	・学校閉庁日を設定する。 ・業務の軽重を元にも年休取得を促す。	B	・学校閉庁日が7日間あり、昨年度以上の夏季休業中年休取得につながった。	A	・昨年度と比べ、長期休業中はもちろんのこと、平日にも年休を取得する職員が増えた。	A	・年休取得率は上がることで、ワークライフバランスがとれ、良い傾向だと思う。	教頭
●特別支援教育の充実	○配慮を要する児童への支援体制を整え、全職員で特別支援教育に取り組むことができるようにする。	○職員が支援を要する児童への支援や指導、合理的配慮を考えたり、実施したりする。	・職員研修の実施 ・資料や情報の共有 ・支援体制の工夫	B	・職員間で連絡や話し合いを持ち、児童実態の共通理解に努めた。また、職員間の協力により、複数の職員が児童の個別の支援・指導に関わった。	B	・児童実施の共通理解ができ、また、支援委員会を適宜行ったことで、支援が必要な児童には、個別の支援ができた。	A	・児童の特性に応じた支援体制の構築を継続して行ってほしい。	特別支援コーディネーター
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目										
重点取組			中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者	
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価		意見や提言
○開かれた学校づくり コミュニティ・スクール	○地域と連携した体験活動の推進	○地域の人材を活用した体験活動を通して、地域との連携を進める。 ○保護者アンケート「学校の教育方針・内容を概ね知っている」の肯定的回答の割合を80%以上を目標とする。	・全学年通した焼き物体験を中心に、体験活動に応じた人材発掘と連携を図る。 ○保護者アンケート「学校の教育方針・内容を概ね知っている」の肯定的回答の割合を80%以上を目標とする。	B	・全学年において焼き物づくりに取り組んでいる。地域人材の指導を受けながら活動することができた。 ・地域民生委員との連絡会を行った。地区担当職員と地区の民生委員が話し合う場を設け、地区児童会での指導など連携につなげた。	B	・各団体と関わるなど、学校として努力したことは評価できる。まだ少しずつ学校外へも出向くことができ、地域と関わることで有田を知るなど交流を深められつつある。	B	・地域産業でもある焼き物づくりを通して、地域の人たちと交流することができることは評価できる。 ・もっと地域との交流を持つ機会が増えればと思う。	主幹教諭 教頭
○教員の授業力向上	○若手教員の指導力向上	○児童アンケートで「授業が楽しい」と肯定的回答の割合を85%以上、保護者アンケートで「授業を工夫している」の肯定的回答の割合を80%以上を目標とする。	・学年グループを中心として、授業づくりや児童理解について日頃から連携を図り、相談し合えるよう、放課後の時間の確保を図る。	B	・日頃から学年やグループで良い関係づくりができており、教材研究や児童理解について情報共有したり、相談したりする時間が増えている。 ・若手研修会を開き、授業づくりや学級経営について具体的な取組につながる研修ができている。	B	・児童アンケートでは「授業が楽しい」と答えた児童が80%を超え、意欲的に学習に取り組んでいることが分かる。保護者アンケートの学力向上に関する項目でも80%以上の保護者が肯定的な回答であった。今後も計画的に研修を行い、教員の指導力向上に努めたい。	A	・ベテランの先生がサポートしながら、若手教員が生き生きと授業実践できていることは素晴らしい。 ・児童も学校は楽しいと思うので、先生方も学校を楽しんでほしい。	主幹教諭 指導教諭
●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育										
5 総合評価・次年度への展望										